

通し番号	4390
------	------

分類番号	20-18-17-01
------	-------------

(成果情報名) 茶園管理方法がヤマビルの生息密度に及ぼす影響

[要約]

県内の茶園において、ヤマビルは、春及び秋の年2回の生息密度の上昇が認められた。ヤマビル個体数は、湿度の高い茶園において多く、茶害虫防除を目的とした農薬散布や肥料としての石灰窒素の施用により減少する傾向が見られた。

(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・北相地区事務所 連絡先0426-85-0203

[背景・ねらい]

県内の一部の茶園（清川村）では、ヤマビルが発生し、茶生産者が行う管理作業に支障を来している。そこで、ヤマビルの発生活動及び茶園管理作業がヤマビルの生息密度に及ぼす影響を調査し、茶園におけるヤマビル対策のための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 ヤマビルの個体数は、4月～6月に増加し、夏期には減少するものの、その後9月～10月上旬に再び増加し、それ以降は減少した（図1）。
- 2 平均湿度が高く推移した茶園では、低く推移した茶園に比べ、ヤマビル個体数が多い傾向が見られた（図1）。
- 3 通常の茶害虫防除を行った防除区と茶害虫防除を行わなかった対照区で比較すると、ヤマビル個体数は、茶害虫防除を目的とした農薬散布により減少した（図2）。また、チャノミドリヒメヨコバイ等の防除に用いられるNAC水和剤を秋期に散布することで、ヤマビル個体数の減少が見られた（図3）。
- 4 肥料として石灰窒素を施用することにより、ヤマビル個体数は減少した（図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 茶園におけるヤマビル対策のための基礎資料となる。
- 2 ヤマビル防除を目的とした農薬や石灰窒素の散布はできない。
- 3 NAC水和剤は、平成21年9月16日付けで茶の農薬登録が削除された。

[具体的データ]

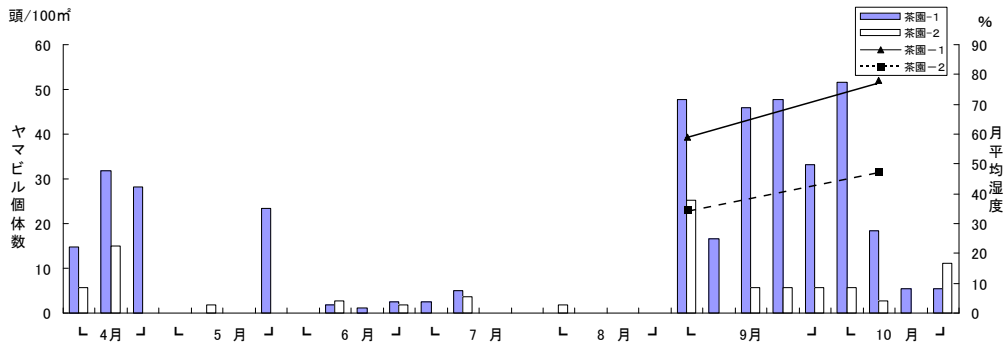


図1 ヤマビル個体数と月平均湿度の推移

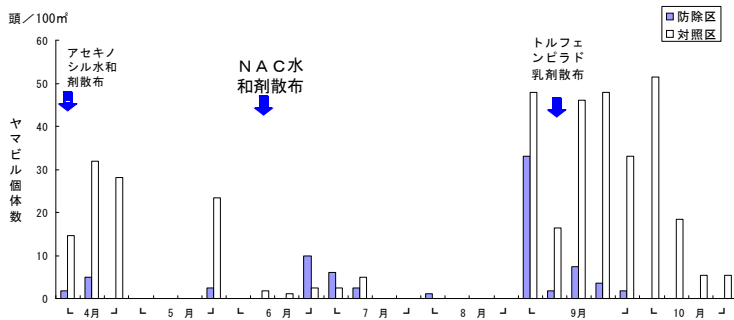


図2 茶害虫防除の影響

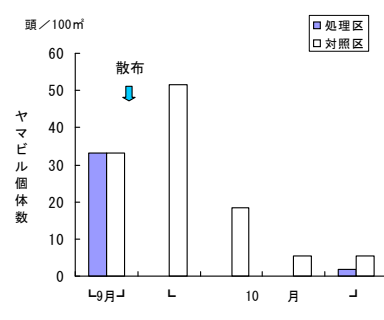


図3 NAC水和剤の影響

※ NAC水和剤は、平成21年9月16日付で茶の農薬登録が削除された。

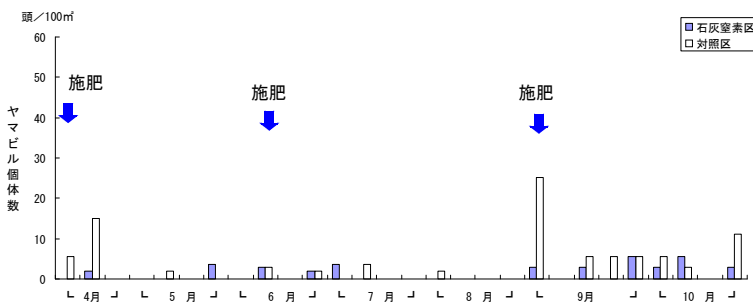


図4 石灰窒素散布の影響

[資料名]

神奈川県農業技術センター研究報告第151号
平成20年度神奈川県農業技術センター北相地区事務所試験成績書

[研究課題名]

茶園管理がヤマビル生存に及ぼす影響調査

[研究期間]

平成19～20年度

[研究者担当名]

白木与志也・黒澤 晃